

世界が注目 新がん治療

光免疫療法のメリットデメリット

新たながん治療「光免疫療法」をご存じか？ 日本では2020年、世界に先駆けて保険適用となった。中部国際医療センター頭頸部がんセンター長、耳鼻咽喉科部長の久世文也医師に話を聞いた。

光免疫療法は、米国防立がん研究所・小林久隆主任研究員の研究成果をもとに、EGFRという抗原に対応する抗体が薬として開発されたことで行われるようになった。この薬には光に反応する物質も含まれている。全

従来治療不可、打つ手がなかった頭頸部がんが消えた

身脂肪の上、薬を点滴投与すると、薬はがん細胞へ集まり、結合する。そこにレーザー光を照射すると、薬が光に反応してがん細胞を破壊する。

「がん細胞を選択的に破壊し、正常な細胞への影響を最小限に抑えられるところが最大のメリットです。動物実験では免疫の活性化も証明されています。免疫細胞が破壊されたがん細胞の残骸を取り込むため、免疫システムが活性化されるのです。人に対する研究発表はまだありませんが、同様の効果が期待できま

2020年に保険適用となったのは、手術でがんを取り除けない局所進行、または局所再発の頭頸部がんだ。手術・抗がん剤・放射線で効果が得られなかった場合に、光

免疫療法が検討される。放射線療法でもがんをセーブできなかった患者さんからは、6人の頭頸部がんのです。しかし6人中4人



舌がんなど頭頸

患者に実施している(2025年8月時点)。

「6人の患者さんは、手術不可能、放射線や抗がん剤で効果がなく、当院で力を入れている陽子線療法、選択的動注併用放射線治療で完全に消えています。」

「うち3人はがんが消失し、縮小の効果があり、この効果はもう2週にわたって持続しています。残りの3人は、腫瘍の増大を抑え、経過観察中ですが、今後も効果が続くことを期待しています。」

「陽子線治療は、腫瘍をピンポイントで狙い撃ちできるのが最大の強みです。健康な組織へのダメージも最小限に抑えることができます。副作用もほとんどありません。また、従来の放射線治療よりも痛みが少ないというメリットもあります。」

「陽子線治療は、がんの種類によって効果が異なります。特に、脳腫瘍や骨転移性がん、頭頸部がんなどに有効です。また、従来の放射線治療では効果がなかったがんにも効果を発揮することがあります。」

「陽子線治療は、がんの種類だけでなく、がんの大きさや位置によっても効果が異なります。そのため、個々の患者さんの状態に合わせて最適な治療法を選択する必要があります。」

「陽子線治療は、がんの治療法の一つとして、多くの患者さんに希望を与えています。今後も、がんとの闘いをする方々に寄り添った医療を提供してまいります。」



舌がんなど頭頸部がんが対象

確保のために気管切開を
す

外科学会総会で、切除不能の再発・転移性頭頸部がん75例について「がん消失が28例、体積が3分の1未満になったのが17例。つまり6割に効果あり」といった発表がなされたが、中部国際医療センターの「6割にがん縮小」に一致している。

「がん細胞はびつな形をしているので、がんを完全に網羅するようにレーザー光を照射すれば、がん細胞が死にますが、少しく漏れがあればそこからがん細胞の再発が起こるリスクがあります。技術面での難しさはがん細胞にも出現しています。免疫療法を使う。

アキシャルックスという薬を用いたもの。「頭頸部アルミノプクス治療」とも呼ばれている。確認し、希望の場合は、主治医に相談するといひ。

EGFRという抗原は、頭頸部がん以外のがん細胞にも出現して

光免疫療法のデメリットとしては、薬の副作用として強い痛みが治療後24時間見られること。治療後、数日間は呼吸管理が必要であること。場合によっては、安全な呼吸わけではありません」

行えるのは、『日本頭頸部外科学会に認定された指定研修施設』『常勤の頭頸部がん指導医がいる』などの施設要件がある。どこでも受けられるわけではない。また、光を照射できるようなデ

「頭頸部がんのみが承認されていますが、今後はほかのがんにも光免疫療法が行われる可能性はあります。体の深いところにあるがんにもレーザー

**ネット検索の仕方に注意
未承認のものも混在**

ネットなど一「光免疫」とは違う治療も含まれ効果を得られるのではないかと、研究が行われてきた。承認されているいくつかの研究が行われているが、厚労省の認可が下りているも、研究が基となっており、したい。

小久保隆主任研究員の「これから発展に注目

◆免疫療法でがんが消失した患者のプロフィールは下記の通り

- ・舌がん(80代男性)
- 2回施行後に腫瘍消失
- ・上顎癌がん(40代男性)
- 2回施行後に腫瘍消失
- ・歯肉がん(60代男性)
- 2回施行後に腫瘍消失

アキシャルックスという薬を用いたもの。「頸部部アルミバックス治療」とも呼ばれている。確認し、希望の場合は、主治医に相談すること。

EGFRという抗原は、頸部部がん以外のがん細胞にも出現している。

「頸部部がんのみが承認されていますが、今後はほかのがんにも光免疫療法が行われる可能性はあります。体の深いところにあるがんにもレーザー光を照射できるようなア

バイスも、開発されていることと思います。また、免疫チェックポイント阻害剤との併用でより高い効果を得られるのではないかと、研究が行われています」

これからの発展に注目したい。